

地域計画

策定年月日	
更新年月日	()
目標年度	令和16年度
市町村名 (市町村コード)	南あわじ市 28224
地域名 (地域内農業集落名)	賀集(賀集) (賀集(賀集))

注:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域計画の区域の状況

区域内の農用地等面積(農業上の利用が行われる農用地等の区域)	43.8 ha
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	22.6 ha
② 田の面積	39.1 ha
③ 畑の面積(果樹、茶等を含む)	4.7 ha
④ 区域内において、規模縮小などの意向のある農地面積の合計	5.5 ha
⑤ 区域内において、今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	2.4 ha
(参考)区域内における55才以上の農業者の農地面積の合計	41.2 ha
うち後継者不在の農業者の農地面積の合計	14.2 ha
(備考)	

注1:①については、農業振興地域担当部局と調整の上、記載してください。

2:②及び③については、農業委員会の農地台帳の面積(現況地目)に基づき記載してください。

3:④については、規模縮小又は離農の意向のある農地面積を記載してください。

4:⑤については、区域内に特定することができない場合には、引き受ける意向のあるすべての農地面積を記載の上、備考欄にその旨記載してください。

5:(参考)の区域内における65才以上の農業者の農地面積等については、できる限り記載するように努めてください。

6:「区域内の農用地等面積」に遊休農地が含まれている場合には、備考欄にその面積を記載してください。

(2) 地域農業の現状及び課題

当地域の農業経営については、水稻とたまねぎやレタス、白菜等の露地野菜、一部で施設園芸や畜産にも取り組中
現状は、地域内の農地は一部を除いて基盤整備ができておらず、

- ・狭い田、形状の悪い田が多く耕作放棄田が見受けられる。
- ・農道も狭く、農耕車両が通行するのに対向できず効率が非常に悪い
- ・山裾に近い地区は獣害もあり対策に時間を費やす状況がある

課題は、担い手平均年齢は64歳と徐々に高齢化が進んでおり

- ・10年後にはリタイヤする農家が発生して不耕作地の増加が懸念される
- ・一方で農業後継者が、35歳～55歳に20人程おり、

次世代の担い手として新規自営就農者になって頂く為の体制や整備が求められる。

農業者: 29戸が専業農家と第一種兼業農家(うち、50歳未満農家2人)、他地区から入作3人(うち、50歳未満農家1人)

組織: 地域計画検討委員会(構成員27人)、賀集水土里を守る会(構成員63人)

(3) 地域における農業の将来の在り方(作物の生産や栽培方法については、必須記載事項)

当地域においては、

- ・水稻については、完結型個人経営を行っており、個々で機械を所持しても所得向上は見込めないことから、中心経営体への作業委託傾向にあり
今後、土地利用型農業の共同化、作業受委託による低コスト化への取り組みを進めていく。

- ・露地野菜は、主にたまねぎを栽培

農業従事者の高齢化が進むにつれて、労働力を補完する取り組みとして、機械化一貫体系の導入や、短期雇用によるバックアップを集落で作業受委託できる体制づくりの検討を進めていく。

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標

(1) 農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針			
ほ場整備事業計画があり			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 担い手候補者への集積、集団化を取り決めている。 ・ 病気等による耕作不可能になった場合に備えた対応として、地区外も含めた情報収集にて法人や規模拡大農家への速やかな移行を図る。 ・ 次世代担い手(後継者)への研修会を開催し、新規自営就農者を増やす活動を実施している。 			
(2) 担い手(効率的かつ安定的な経営を営む者)に対する農用地の集積に関する目標			
現状の集積率	23.4	%	将来の目標とする集積率
			70.5 %
(3) 農用地の集団化(集約化)に関する目標			
ほ場整備事業計画においては、総面積22ha 集団化率80%以上 筆数93 面積18ha			

3 農業者及び区域内の関係者が2の目標を達成するためとるべき必要な措置

(1) 農用地の集積、集団化の取組
現在進めているほ場整備事業計画を含め
<ul style="list-style-type: none"> ・ 担い手候補(認定農業者)リスト作成 ・ 目標地図のほ場区画毎に耕作者の貼り付けを実施する。 (表作耕作者と、裏作耕作者が異なる場合があるので2部作成する。)
(2) 農地中間管理機構の活用方法
当ほ場整備事業は中間管理機構関連事業であり、地域計画策定後は事業範囲の農地を全て預ける手続きを進めていく。
(3) 基盤整備事業への取組
当ほ場整備事業により、大部分がほ場整備される計画となっており、標準区画2反、地下灌漑システム、自動給水システム、排水管路化等、スマート農業導入により、担い手への省力化を目指す。
(4) 多様な経営体の確保・育成の取組
当ほ場整備事業計画では
<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在5人の認定農業者、認定候補者21人を担い手として予定 ・ 上記メンバーよって集団化による営農計画が組まれています ・ 担い手の高齢もあり、次世代の担い手を就農バックアップできる体制を集落内で組織化する。
(5) 農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の取組
玉葱定植、収穫、白菜の結束、収穫、雑草処理等
<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在のところは、個々に支援サービス事業者に発注している

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組内容を記載してください)

<input checked="" type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input checked="" type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④畑地化・輸出等	<input type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input checked="" type="checkbox"/> ⑨耕畜連携等	<input type="checkbox"/> ⑩その他

【選択した上記の取組内容】

- ① 鳥獣害対策について、地域における話し合いを活性化させ、市の事業である「集落ぐるみの鳥獣害対策支援事業」を活用しながら、効率的かつ効果的な対策が出来るよう「被害防止計画」の策定を進める。
- ③ ほ場整備事業計画で、スマート農業関連機器の情報収集実施・導入予定として自動給水システム、地下灌漑システム、排水管路化を検討中
- ⑦ 整備された施設の草刈りや水路清掃等の維持管理のルールを作り運用を進める予定。
- ⑨ 畜産農家と連携することで堆肥利用を推進し、飼料作物の推進も図っていく。

4 地域内の農業を担う者一覧(目標地図に位置付ける者)

属性	農業を担う者 (氏名・名称)	現状			10年後 (目標年度:令和16年度)				
		経営作目等	経営面積	作業受託面積	経営作目等	経営面積	作業受託面積	目標地図上の表示	備考
1	認農	稲・野菜	2.1 ha	ha	稲・野菜	2.3 ha	ha	N1	後継有
2	認農	稲・野菜	2.1 ha	ha	稲・野菜	2.7 ha	ha	H1	後継有
3	認農	稲・野菜	1.3 ha	ha	稲・野菜	1.2 ha	ha	H2	後継有
4	認農	野菜	1.0 ha	ha	野菜	0.5 ha	ha	K2	後継有
5	認農	稲・野菜	1.4 ha	ha	稲・野菜	0.9 ha	ha	Y2	後継有
6	認農	稲・野菜	2.6 ha	ha	稲・野菜	4.0 ha	ha	D1	後継有
7	利用者	稲・野菜	0.8 ha	ha	稲・野菜	1.2 ha	ha	O1	後継有・認農候補
8	利用者	稲・野菜	0.8 ha	ha	稲・野菜	1.0 ha	ha	K1	認農候補
9	利用者	稲・野菜	1.5 ha	ha	稲・野菜	1.4 ha	ha	T1	後継有・認農候補
10	利用者	稲・飼料作物	0.9 ha	ha	稲・飼料作物	1.0 ha	ha	O2	後継有・認農候補
11	利用者	稲・野菜	1.2 ha	ha	稲・野菜	1.0 ha	ha	K4	後継有・認農候補
12	利用者	稲・野菜	0.8 ha	ha	稲・野菜	0.7 ha	ha	K5	後継有・認農候補
13	利用者	稲・野菜	1.0 ha	ha	稲・野菜	1.1 ha	ha	M1	認農候補
14	利用者	稲・野菜	0.6 ha	ha	稲・野菜	1.3 ha	ha	O3	認農候補
15	利用者	稲・野菜	1.3 ha	ha	稲・野菜	1.4 ha	ha	K3	後継有・認農候補
16	利用者	稲・野菜	0.6 ha	ha	稲・野菜	0.5 ha	ha	H3	認農候補
17	利用者	WCS・野菜	0.8 ha	ha	WCS・野菜	0.4 ha	ha	Y1	後継有・認農候補
18	利用者	稲・野菜	0.9 ha	ha	稲・野菜	0.8 ha	ha	H4	後継有・認農候補
19	利用者	稲・野菜	0.8 ha	ha	稲・野菜	0.7 ha	ha	H5	後継有・認農候補
20	利用者	稲・野菜	0.5 ha	ha	稲・野菜	0.6 ha	ha	Y3	認農候補
21	利用者	稲・野菜	1.0 ha	ha	稲・野菜	1.5 ha	ha	T2	後継有・認農候補
22	利用者	WCS・野菜	1.0 ha	ha	WCS・野菜	1.3 ha	ha	M2	認農候補
23	利用者	稲・野菜	0.7 ha	ha	稲・野菜	0.7 ha	ha	D2	認農候補
24	利用者	稲・野菜	1.0 ha	ha	稲・野菜	1.1 ha	ha	I1	認農候補
25	利用者	野菜	0.7 ha	ha	野菜	0.9 ha	ha	A1	55歳以下・認農候補
26	利用者	稲・野菜	1.1 ha	ha	稲・野菜	0.8 ha	ha	I2	後継有・認農候補
27	利用者	野菜	0.3 ha	ha	野菜	0.4 ha	ha	M3	55歳以下・認農候補
28	利用者	稲・野菜	0.5 ha	ha	稲・野菜	0.5 ha	ha	ZH1	
29	利用者	野菜	0.1 ha	ha	野菜	0.1 ha	ha	ZM4	
30	利用者	稲・野菜	0.7 ha	ha	稲・野菜	0.6 ha	ha	ZK4	後継有
31	利用者	野菜	0.7 ha	ha	野菜	0.1 ha	ha	ZM3	後継有
32	利用者	稲・野菜	0.1 ha	ha	稲・野菜	0.1 ha	ha	ZK5	後継有
33	利用者	野菜	0.3 ha	ha	野菜	0.1 ha	ha	ZN2	後継有
34	利用者	野菜	0.7 ha	ha	野菜	0.2 ha	ha	ZO8	後継有
35	利用者	稲・麦	1.0 ha	ha	稲・麦	1.0 ha	ha	ZK11	
36	利用者	稲・野菜	0.7 ha	ha	稲・野菜	0.6 ha	ha	ZK6	後継有
37	利用者	稲・野菜	0.2 ha	ha	稲・野菜	0.2 ha	ha	ZK7	
38	利用者	稲・野菜	0.4 ha	ha	稲・野菜	0.3 ha	ha	ZK15	後継有
39	利用者	稲・野菜	0.4 ha	ha	稲・野菜	0.4 ha	ha	ZI1	
40	利用者	野菜	0.6 ha	ha	野菜	0.6 ha	ha	ZY2	
41	利用者	稲・野菜	0.4 ha	ha	稲・野菜	0.1 ha	ha	ZY1	後継有
42	利用者	野菜	0.7 ha	ha	野菜	0.1 ha	ha	ZT2	
43	利用者	稲・野菜	0.4 ha	ha	稲・野菜	0.3 ha	ha	ZK2	
44	利用者	稲・野菜	0.6 ha	ha	稲・野菜	0.3 ha	ha	ZK9	後継有
45	利用者	野菜	0.2 ha	ha	野菜	0.1 ha	ha	ZH7	後継有
46	利用者	野菜	0.9 ha	ha	野菜	0.1 ha	ha	ZN3	
47	利用者	稲・野菜	0.4 ha	ha	稲・野菜	0.2 ha	ha	ZH8	
48	利用者	稲・野菜	0.2 ha	ha	稲・野菜	0.3 ha	ha	ZH6	後継有
49	利用者	野菜	0.2 ha	ha	野菜	0.1 ha	ha	ZM1	後継有
50	利用者	稲・野菜	0.6 ha	ha	稲・野菜	0.6 ha	ha	ZH3	55歳以下
51	利用者	稲・野菜	0.5 ha	ha	稲・野菜	0.3 ha	ha	ZH4	
52	利用者	野菜	0.3 ha	ha	野菜	0.1 ha	ha	ZF1	
53	利用者	野菜	1.2 ha	ha	野菜	0.5 ha	ha	ZF2	
54	利用者	野菜	0.2 ha	ha	野菜	0.1 ha	ha	ZD5	
55	利用者	稲・野菜	1.0 ha	ha	稲・野菜	0.7 ha	ha	ZD1	55歳以下
56	利用者	野菜	0.2 ha	ha	野菜	0.0 ha	ha	ZF3	
57	利用者	稲・野菜	0.4 ha	ha	稲・野菜	0.4 ha	ha	ZO1	後継有
58	利用者	稲・野菜	0.4 ha	ha	稲・野菜	0.1 ha	ha	ZM6	
59	利用者		ha	ha		ha	ha		
60	計		43.2 ha	0.00 ha		39.9 ha	0.0 ha		